

## 2023（令和5）年東日本恵迪寮同窓会「新春寮歌歌い初め」・報告

2023（令和5）年1月26日  
東日本恵迪寮同窓会 幹事長 竹下忠彦

国や東京都からのコロナ行動制限も緩和され、どうやら対面での「歌い初めの会」を開催できる条件が整いましたので、3年ぶりに東日本恵迪寮同窓会「新春寮歌歌い初め」を2023年1月9日（月・祝）に開催しました。以下に概要を報告します。

### 1. 会場

今回利用した会場も、本郷の老舗旅館「鳳明館」です。昨年10月の大寮歌祭で利用し、好評だったので今回も同じ会場にしました。ただし、今回は本館を利用しましたが、今回は本館から少し離れた森川別館の利用になりました。築120年を超える有形文化財登録の本館に対し、森川別館は戦後建築の比較的新しい建物ですが、写真を見ていただければおわかりになるかと思いますが、なかなか重厚な造りです。女将は玄関の造りが自慢だと宣伝しています。

会場は22畳の間を3時間借り切りました。長テーブルをコの字型に配置し、お互い向き合って歌ったり話したりの状況にならないように工夫しました。また事前の検温、マスク着用、大声にならないよう歌唱する等、コロナ感染防止対策をとりました。

### 2. 寮歌歌い初めの様子

久しぶりの対面式寮歌歌い初め。今回も10月の大寮歌祭に続き、交流を兼ねて1人1分自己紹介を行いました。さすが恵迪寮関係者、今回も話したがりの参加者が多く、とても1人1分では収まりませんでした。楽しい自己紹介トークの時間になりました。

参加者中で最年長者は、常野勝彦氏（S38入寮、水産学部）。同窓会のイベント初参加とすることで、たっぷり恵迪寮時代のこと・その後の人生を語っていただきました。

本田彰氏（S43入寮・第60代応援団団長）は10月大寮歌祭に続いての参加。「恵迪寮大改修に北大全体の協力が必要だ。自治の死守、寮の存続、寮歌の継承のためにもOB・OGは行動を起こさなくてはならない。」と再び力強くアピールされました。

松岡繁幸氏（S48入寮）は、12月末お孫さんが誕生。名前は「翔（かける）！」と披露されました。そして、S2年寮歌「蒼空高く翔らむと」の音頭をとられました（なんだか出来すぎの話）。松岡さん、おめでとうございます！

コロナ以前の寮歌歌い初めでは、寮歌を次々に歌っていく形式で進めていたのですが、

今回は、自己紹介・トーク中心で、合間に寮歌を歌う展開になりました。  
最後は、木村副会長の音頭で「都ぞ弥生」斉唱。久しぶりに肩を組んでの斉唱となりました。

### 3. 参加者

常野勝彦 (S38)、長谷川和雄 (S42)、猪俣哲美 (S43)、本田 彰 (S43)  
坂倉雅夫 (S44)、木村成二 (S46)、松岡繁幸 (S48)、若目田 篤 (S51)  
朝倉仁樹 (S52)、竹下忠彦 (S53)、佐藤誠一 (S54)、飯島康司 (S55)  
泉 猛 (H23)、坂下節子 (会友) 以上 14 名

以上